

# 西大寺金堂院の復元

都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室長 鈴木智大

2013 年度におこなった平城第 505・521 次調査では、薬師金堂と弥勒金堂を取り囲む回廊のうち、西面回廊および東面回廊を発見し、金堂院の東西規模が判明した。宝亀 11 年（780）成立の『西大寺資財流記帳』には両金堂の規模や特徴とともに、金堂を取り囲む回廊の全長が記されている。周辺の地形を考えあわせると、南北規模も推定できる。市街地に眠る西大寺金堂院を復元する。

## 1 『西大寺資財流記帳』

1172 尺、東西各軒廊。多彩な建築装飾。

## 2 西大寺金堂院西面回廊の調査 一第 505 次調査

西面回廊／薬師金堂西軒廊

## 3 西大寺金堂院東面回廊の調査 一第 521 次調査

東面回廊

## 4 西大寺金堂院の復元

総長（資財帳）—東西規模（第 505 次調査-第 521 次調査）=南北規模

弥勒金堂と中門

幢幡遺構（掘立柱 SX1150） 一第 597 次調査

## 5 西大寺伽藍の復元

### 主要参考文献

大岡實「西大寺」『南都七大寺の研究』中央公論美術出版、1966 年。

太田博太郎「西大寺の歴史」『奈良六大寺大観 第 14 卷 西大寺 全』岩波書店、1973 年。

『平城京復原模型記録』奈良市、1978 年。

宮本長二郎「奈良時代における大安寺・西大寺の造営」『日本古寺美術全集 第 6 卷 西大寺と奈良の古寺』小学館、1983 年。

『西大寺古絵図は語る—古代・中世の奈良—』奈良国立博物館、2002 年。

佐藤信 編『西大寺古絵図の世界』東京大学出版社、2005 年。

大林潤「西大寺伽藍の造営計画に関する研究」『文化財論叢 IV』2012 年。

史料 「西大寺資材流記帳」金堂院閑連抜粹（底本は西大寺藏写本。『西大寺古絵図の世界』による。◇は割注。◎は筆者注。）

「縁起坊地第一

夫西大寺者 平城宮御宇

寶字稱德孝謙皇帝、去天平寶字八年九月十一日誓願、將敬造七尺金銅四王像、兼建彼寺关（矣）、乃以天平神護元年、創鑄件像、

以開伽藍也、居地參拾壹町、在右京一條三四坊、東限佐貴路、〈除東北角喪儀寮〉、南限一條南路、西限京極路、〈除山陵八町〉、北

限京極路、

堂塔房舍第二

金堂院

藥師金堂一宇（長十一丈九尺、廣五丈三尺、）

蓋上東西金銅沓形、各重立金堂鳳形、各咋銅鐸、蓋上中間金堂

火炎一基、中在金堂茄形、居銅蓮花形、令持金堂師子形二頭、

蹈金銅雲形、又宇上周廻火炎卅六枚、並在銅（銅）瓦形、角隄

瓦端銅華形八枚、桶《桷》端金銅花形冊六枚、各着鈴鐸等、又

四角各懸鐸、堂扇《扉》并長押、在金銅鋪肱金等、

弥勒金堂一基（二重長廿《十》丈六尺、廣六丈八尺、）

蓋東西隣瓦端、各在銅鑄枚金、又兩端金銅龍舌十枚、桶《桷》

端各着金銅葛形、又角各銅鐸、堂扇《扉》并長押、在金銅鋪肱

金等、

雙廊一周（一百十七丈二尺、東西各軒廊、）

中門一宇（長七丈八尺、廣三丈、）

東西脇門二字（各長二丈、廣二丈八尺五寸、）

中大門一基（二重、長九丈、廣三丈七尺、）在鐸八口、

東西樓門二基（各長二丈六尺、廣二丈、）

塔二基（五重、各高十五丈、）

幢六株（三株、无鳳形、）

在金銅鳳型四翼（三破、）牡柱並金銅頭、

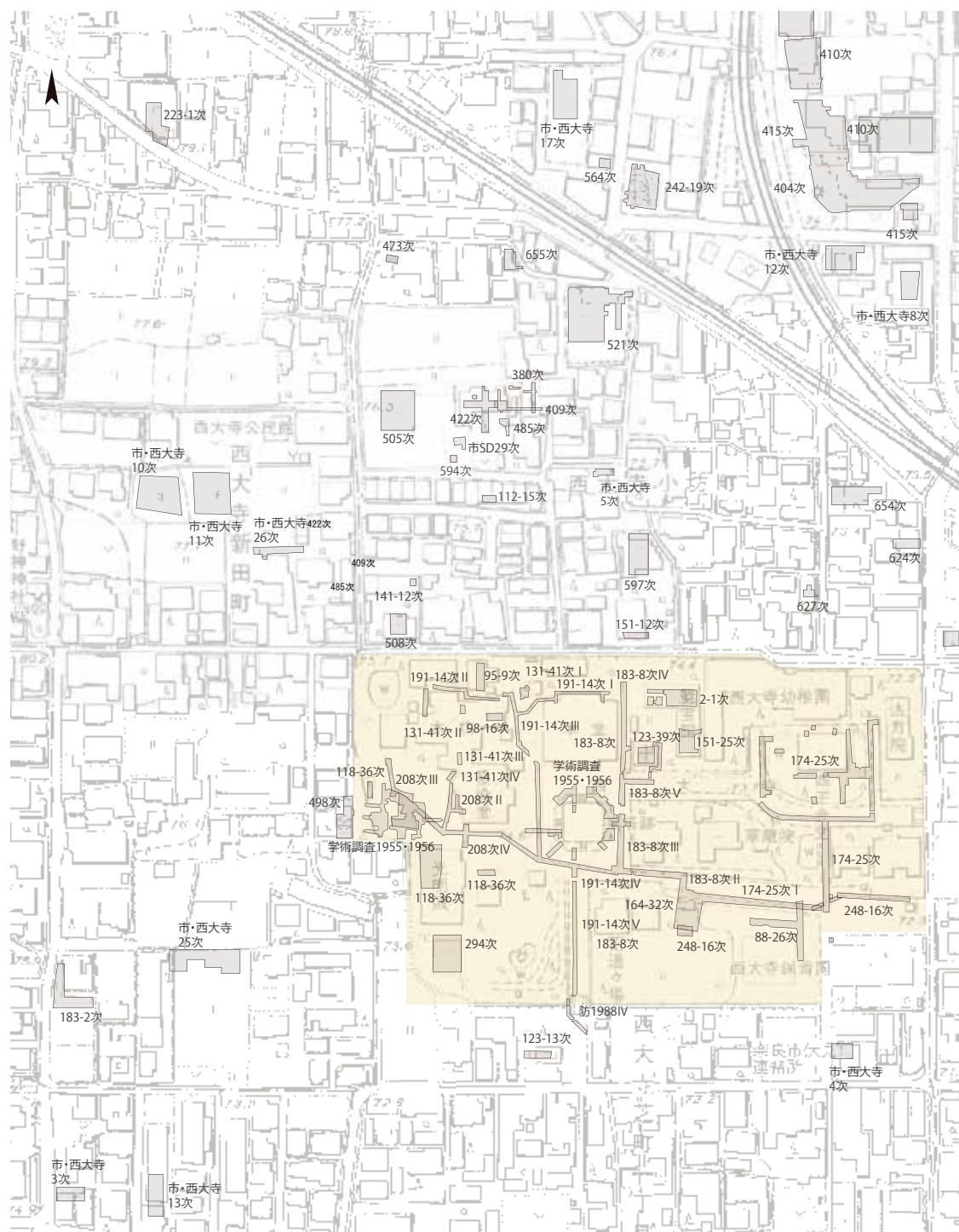


図1 西大寺旧境内の発掘調査位置図（網掛けは、現在の西大寺境内）

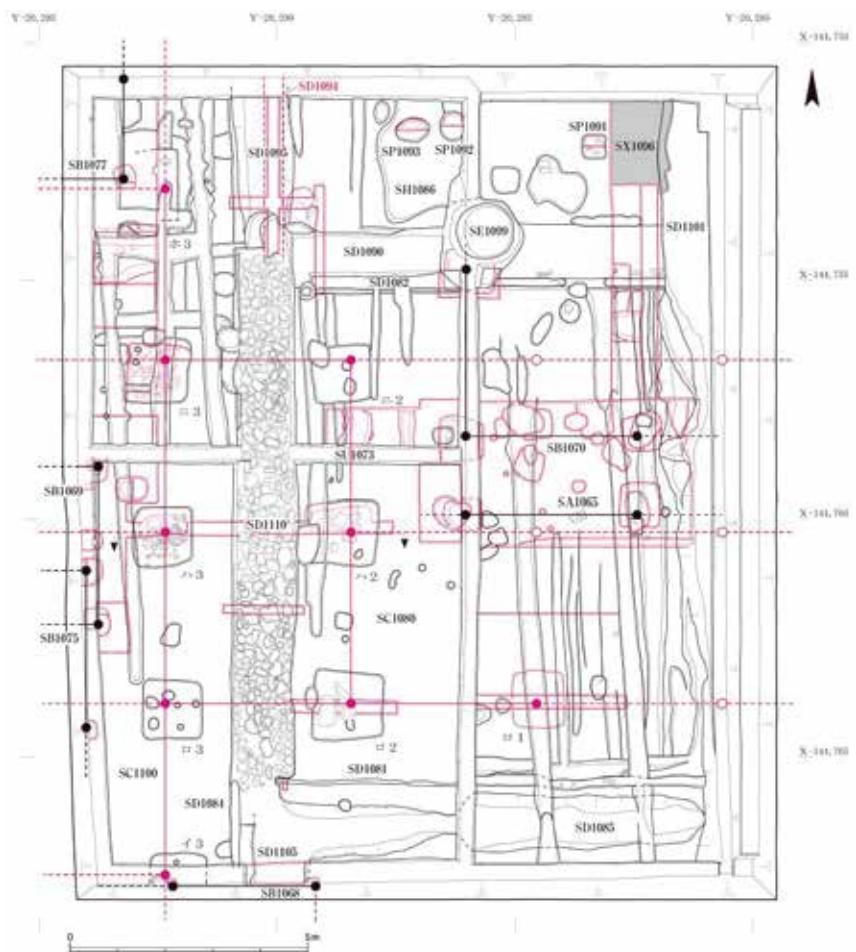


図2 平城第505次調査遺構図  
(『紀要2014』所収)



図3 平城第505次調査区全景  
(西から)

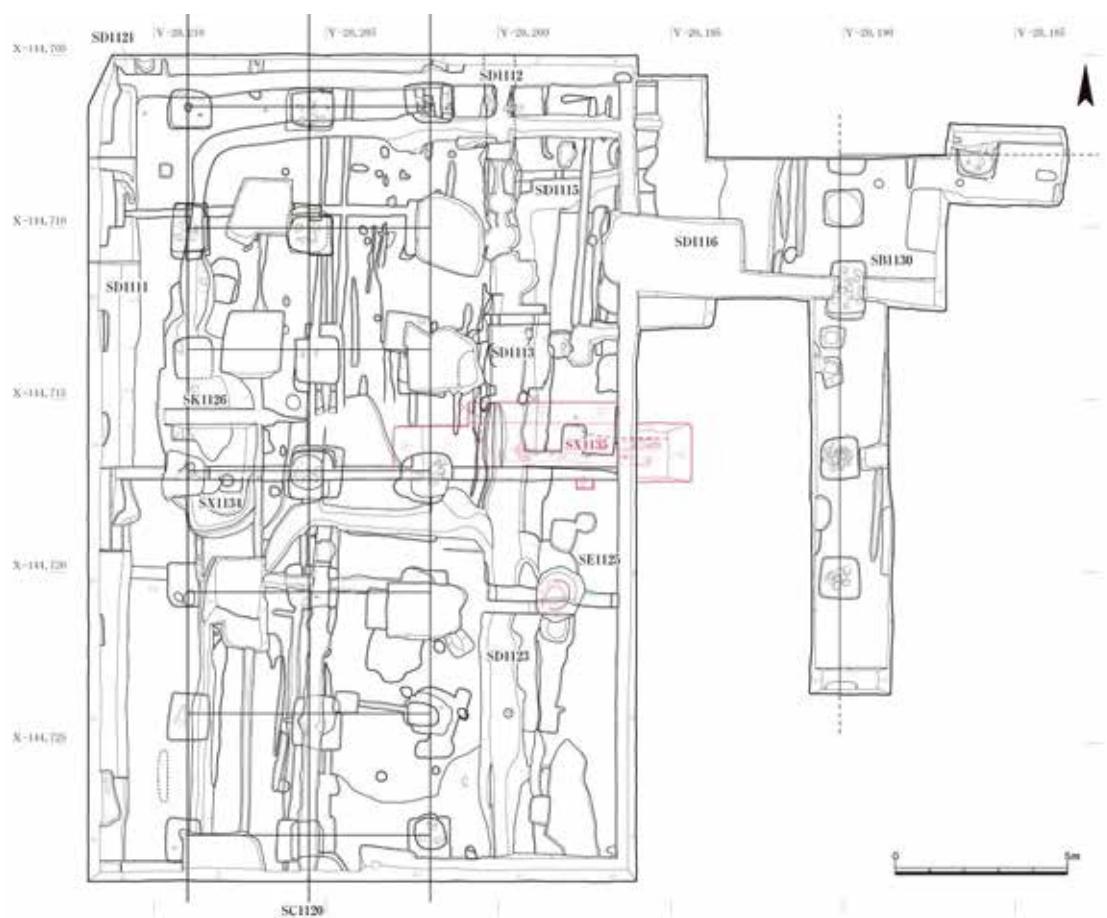
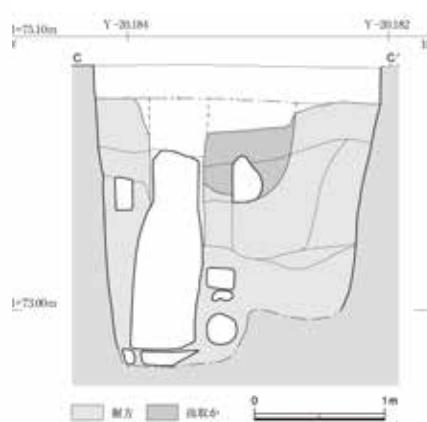
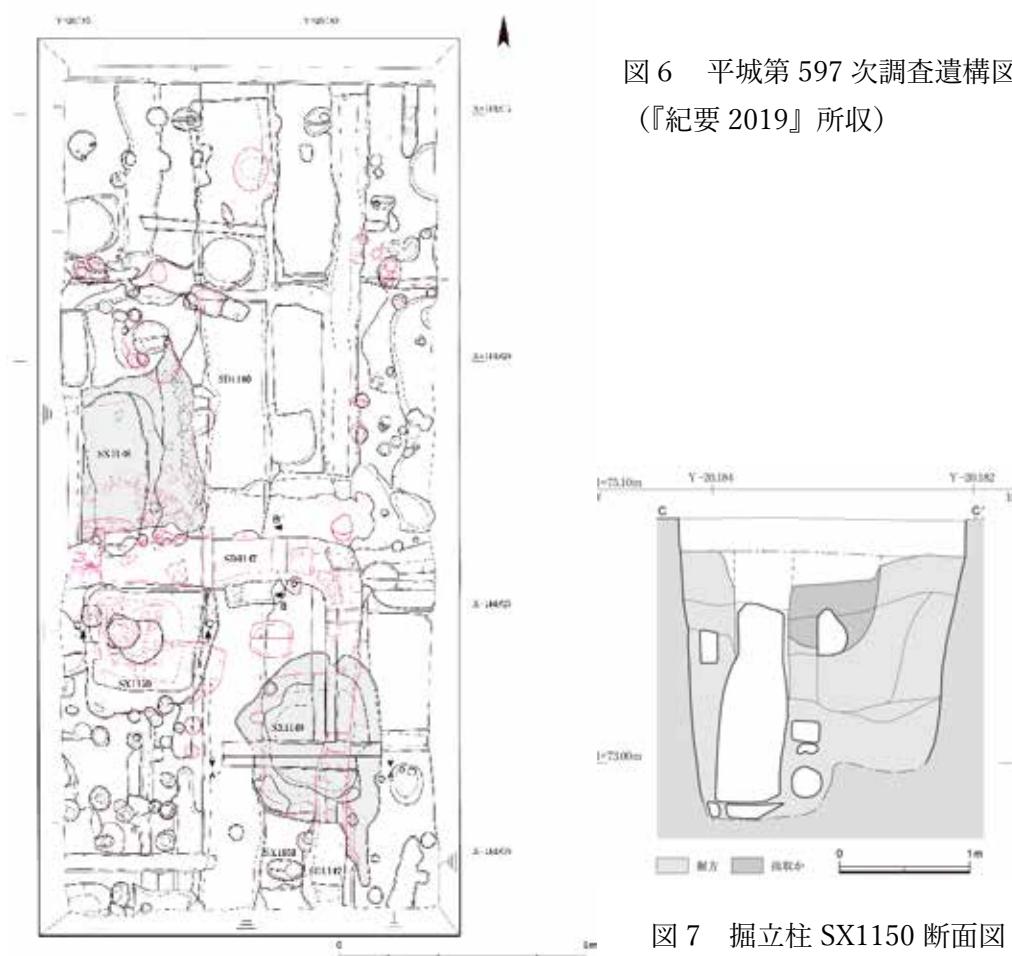


図4 平城第521次調査遺構図（『紀要2014』所収）



図5 平城第521次調査区全景（北東から）



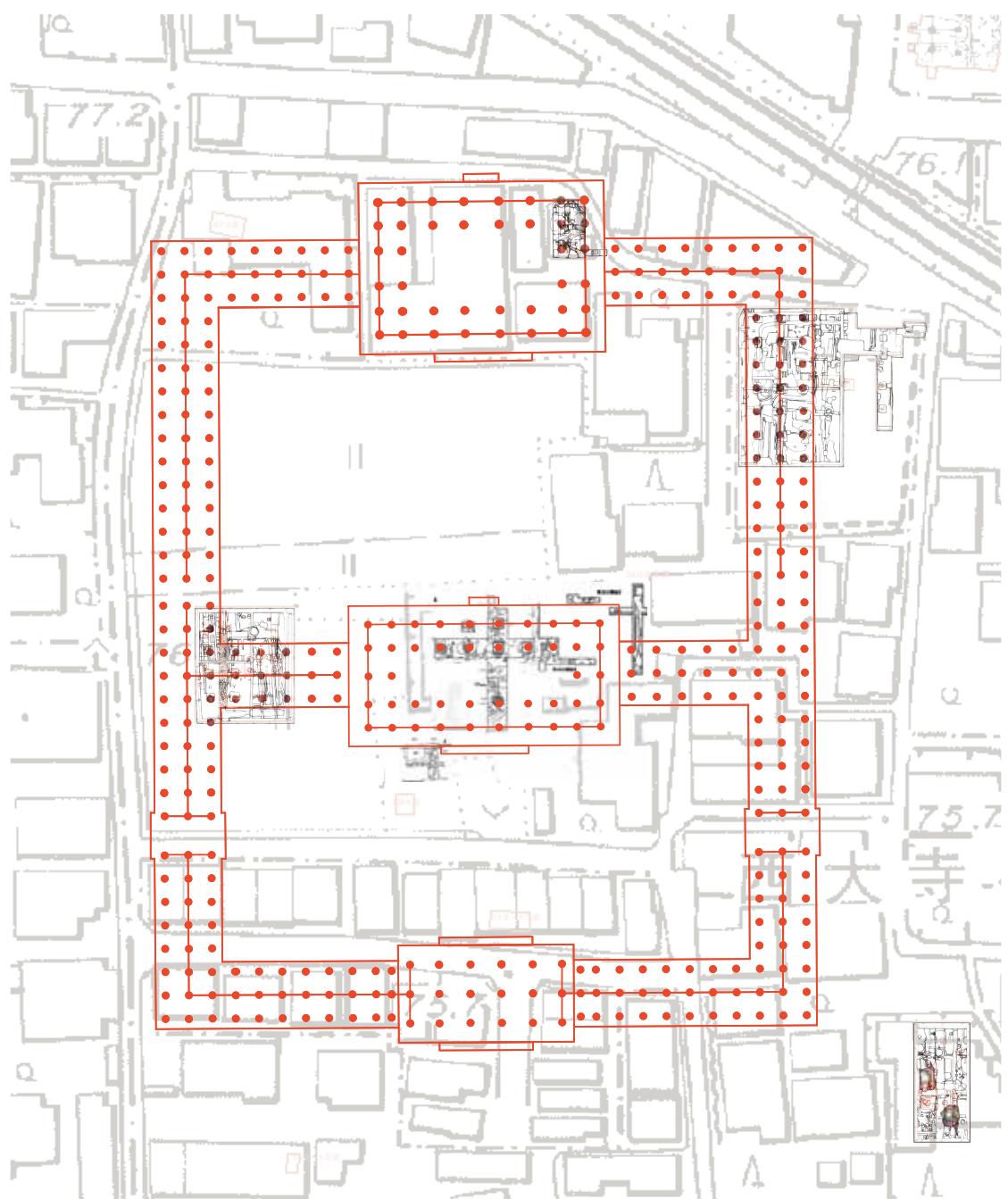


図9 西大寺金堂院復元模式図

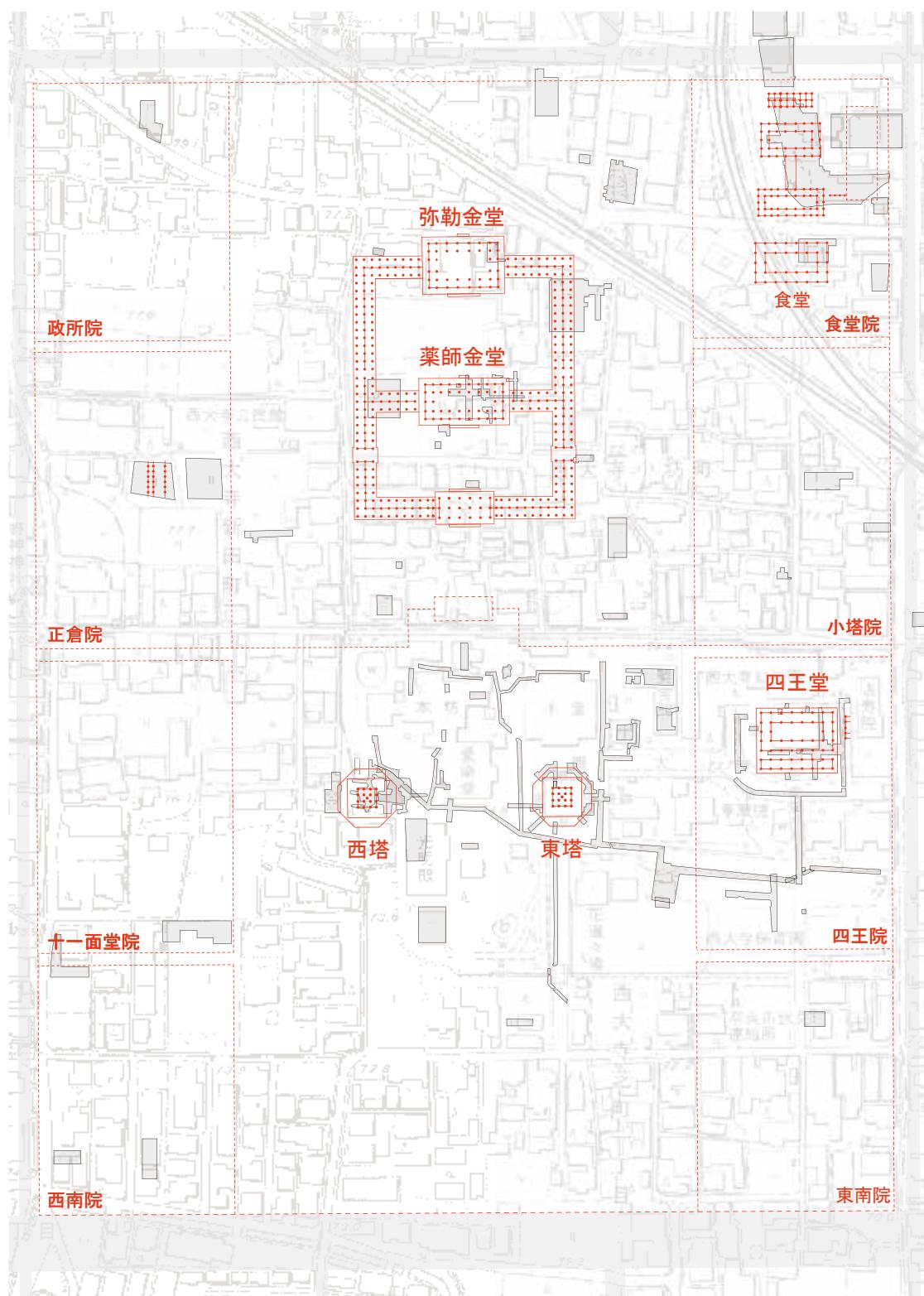


図 10 西大寺伽藍復元模式図